

## 滋賀県文化審議会評価部会第2回会議 議事録概要

- 1 日 時 平成23年10月24日(月) 13:00～15:00
- 2 場 所 滋賀県庁 本館4-A会議室
- 3 出席者 委員 : 東委員、直田委員、殿村委員、富永委員、中川委員  
(5名出席)  
事務局: 多胡次長、西川課長、片山参事ほか
- 4 議 題 (1) 滋賀県文化審議会評価部会第1回目の主な意見  
(2) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標について  
①平成21年度評価指標(現状)および平成27年度評価指標(目標)について  
②評価指標の見直し案について  
③アンケート調査について  
(3) 重点施策に基づく個別事業の評価について

#### 4 議事録概要 以下のとおり

##### ■ 次長挨拶

##### ■ 議題

#### (1) 滋賀県文化審議会評価部会第1回目の主な意見

#### (2) 滋賀県文化振興基本方針の評価指標について

##### ①平成21年度評価指標(現状)および平成27年度評価指標(目標)について

##### ②評価指標の見直し案について

#### ○委 員

- ・モニターアンケートの精度を考える必要がある。滋賀県の人口の構造を見ると、若者の割合が3分の1であるが、モニターアンケートでは割合が8%しかない。
- ・目標値の設定の仕方が疑問である。たとえば文化・芸術の体験学習を行う児童生徒数では3万人を目標としているが、ひとつの学年で機会を与えるとすると目標値がはっきり出てきてしまうので、それ以外にも興味のある子どもに提供するとすれば目標の意味がはっきりするのではないか。
- ・芸術文化祭の若者の参加率で年齢分布が見えればわかりやすい。若い人は色々なアートな分野に関わってきている人が多いと思うが、若者が入りにくい条件設定や、一種の参入障壁があるのかもしれない。

- ・登録有形文化財の件数の目標はどういう意味なのか。候補となりうる建物を全部登録していく、ということであれば目標値は明確だが、無制限に増えていくものではないのではないか。
- ・アンケート調査だけでなく、現場のヒアリングも必要だ。調査対象は客側と教育する側、教育する側にも学校と文化活動をしている団体がある。学校の問題、創造団体の問題を見るために両方が必要になってくる。

○委員

- ・目標値の変更がいくつかあったが、若者の芸術文化祭の参加人数が倍になっているが、県の方で賞を設定するなどの施策の裏付けがあるのか。

○委員

- ・若者たちはインターネットや iPad 等で文化を創り出している。例えば若者たちが自慢できる滋賀文化というサイトがあったとして、そこに若い視点でこれが滋賀の文化だと思う写真や動画をアップロードする数、それをダウンロードの数といった、まったく新しい評標が若い人の文化振興には必要だ。

○委員

- ・重点施策別のアンケートの実施だが、実施の趣旨では「現場の意識を把握する」ということになっているが、アンケートの内容が意識よりも数値で答えが出るようになっていく。意識はなかなか数字に表れないものだ。
- ・児童生徒の文化芸術の体験学習という重点施策があるが、滋賀次世代文化芸術センターはどのような組織でスタッフは何人いるのか。アンケート調査では次世代文化芸術センターも関わってくるのではないかと。

○委員

- ・県内の博物館において、HP のアクセス数を成果のひとつとして考える館も増えている。

○部会長

- ・インターネットの指標は対象が県民に限らないということもあるが、鑑賞する人が県民であるかどうかは厳密に考えなくてもよいのではないかと。

○委員

- ・アウトカム指標の把握について、例えば子どもの文化芸術については、もう一度見たいと思った子どもの数や、いやだと思った子どもの数を指標として把握しておくべきではないかと。次にこのようなアウトカム指標が必要になってくる。そうすると次の施策の展開が見えてくるのでは。

○部会長

- ・現在の評価指標に加えて、次のアウトカムを設定した方がいい。この数字を達成すると、こんなことが起こってくる、よい変化が起こってきて、実はそれが目的だといったような、指標に奥行きをつけておいた方がいいのではないか。

○委員

- ・目標値の上げ方について、目標値を上げるような施策を追加することはできるのか。施策のやり方について、たとえば積極的に企業との連携をいれていけばよい。

○事務局

- ・目標値の上げ方は重要であると考えている。次に説明する特定事業の評価によって事業の実施方法等を改善して目標値へ近づけていこうと考えている。

○部会長

- ・補助指標がもっと必要である。8つの重点施策の代表的な指標は今の指標だが、補強する指標はたくさん作っておく必要があるということは前回会議で確認している。それを作る際には、もっと行政側から提案して欲しい。

○委員

- ・子どもの文化芸術の体験授業で、学校教育と家庭教育は連続しているものだと考えている。保護者がどのように事業を評価しているかということも把握できれば、別の側面が見えるのではないか。

○事務局

- ・いただいた御意見をもとに指標、アンケートの実施について検討させてもらう。
- ・指標の修正の件は次回の文化審議会にあげさせてもらう。

(3) 重点施策に基づく個別事業の評価について

○部会長

- ・資料5の評価シート案は他団体モデルと趣旨が異なるのではないか。例えばモデル団体の定性評価の欄には実績・伝統の継承と新たな魅力創出、さまざまな来館者への対応、連携による総合力の発揮、効率的な事業展開とあるが、これは博物館の定性評価だ。事務局案の定性評価は県民の主体的な文化活動の促進から滋賀ブランドの構築まで項目があるが、このシート案は何かの特定事業を想定しているのか。

○事務局

- ・特定の事業を想定していない。重点施策に基づいて各事業に合う形で入れていけるものについては入れていきたい。

○部会長

- ・シートの項目は重点施策の項目が組み合わさっているが、この項目で全てを通してやるということか。評価にどの項目を組み合わせるのが定性評価では問われてくる。その決定はどのように行うのか。

○事務局

- ・定性評価の項目は変わってくる可能性もある。今後、ワーキングで検討していく。

○委員

- ・重点施策の1から7までであるが、主な取組として新たな施策を実施し、その新たな施策をこのシートで評価するということか。

○事務局

- ・すでに実施している事業を想定している。例えばある公演を観に行っていて、事業実施者の自己評価を評価部会で説明して、御意見をいただいて、最終の評価にする、そのようなイメージだ。

○委員

- ・事業の評価と施設の評価はどう連動させればいいのか。たまたま選んだ事業の評価が悪いからといって、その施設の評価が悪いというわけにはならない。そのあたりのずれをなくすためのやり方はあるのか。

○部会長

- ・モデル事例の場合は指定管理者選定基準にするという話なので、施設評価だ。これは事業評価で、施設の評価までは考えていないということだ。

○委員

- ・評価シートで指標と連動する施策を挙げているが、この中から事務局で十分検討して、これらの施策が一番効果が見えるということか。

○事務局

- ・資料に記載しているのはあくまで一例として挙げている。

○部会長

- ・資料の主な取組が重点施策の主な事業の候補ということだ。候補と特定できるものもあれば、もう少し選び出さないといけないものも入っている

○事務局

- ・年3回の会議の中で議論していただきたいと考えており、1回の会議に挙げられる事業数は1つか2つになる。年間で5つか6つしか評価できない。そのため実施年度によって対象となる事業は変わっていくということになる。

○委員

- ・重点施策と主な事業を6つ挙げている。重点施策の8は事業とは直接繋がらないが、定性評価の項目になっており、どの事業にも項目として出てくると考えた方がいいのか。

○部会長

- ・重点施策6は文化財保護課の所管であるので、対象から外したと解釈できるが、重点施策8は滋賀ブランドの発信で、具体の事業としてはないのだろうか、それとも全部に関係するため指標化する必要があるのかということだ。

○事務局

- ・相当する事業を探してくるのが難しかったという面がある。

○部会長

- ・そうすると評価シートの定性評価の文化力の向上による滋賀ブランドの構築が入っているが、全ての重点施策1～7にくっつけておけばいいということになる。

○委員

- ・そのように考えてこの評価シートが作られているということでよいか。

○事務局

- ・それでよい。

○部会長

- ・モデル事例の評価シートをそのまま使っているが、モデル事例の定性評価と滋賀県の定性評価にはずれがある。滋賀県のシートには、定性評価ではなくて、有効性を定量評価しているものも入っている。定性評価と書いたばかりに主観的に書いていいと勘違いする人がいるかもしれない。達成成果と言った方がいいのでは。正しく言えばパフォーマンスではなくてエフェクトだ。

○委員

- ・事業評価シートの定性評価は3つの施策の方向性との関係で出しているのだから、その理念との関係になる。単に数字だけではなく、ある種の主観も混じってくる。私は定性評価といっても違和感がなかった。

○部会長

- ・そのようにお考えなら定性評価としてもかまわない。確かに現場の意識を把握しなければいけないということだが、自己評価をする時に現場の意識や意気込みが表れる。それは意味のある情報だ。

○事務局

- ・次回の第3回会議は重点施策と主な事業と事業評価シートを平成24年度にスタートできるように、ワーキング等で議論のうえ、たたき台という形でお示しさせていただき、御意見をいただきたい。24年度に評価できるように考えている。
- ・場合によってはモデル的に事業評価シートを示して、その上で御意見をいただけたらと思っている。

○部会長

- ・ただ、例えば施設全体を評価するというようなことをしようとするものすごく膨大なことになる。ひとつひとつ事業評価をして、それを全体で評価するということはコンサルティングに依頼すべきような話である。

○事務局

- ・皆様の御意見を踏まえて第3回目を開催させて頂く。

以上